



ペ  
リ  
リ  
ユ  
ー  
島  
と  
シ  
ン  
ユ  
ウ  
シ  
ヨ

2005年の11月と、2006年の2月の2度にわたって、  
パラオ共和国のペリリユー島に滞在して取材を行った。  
その様子はWEB-LUE vol.4「定番無視のパラオ」、  
vol.5「リベンジ! ペリリユーエクスプレス」でお伝えしてきた。  
今回は、海だけでなく、  
ペリリユーという島の持つ素朴な表情を中心に、  
この島と海について語っていきたいと思う。

# Palau, Peleliu island

Special thanks : Day Dream Peleliu Station  
Photo & Text : Takaji Ochi

Palau, Peleliu island

www.web-lue.com

Web-lue 2006. Autumn

 Information Link <http://daydream.to/peleliu/index.html>  情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



村の中を毎日素っ裸で遊び回る

## 素朴な島での日常生活



ダイビングの合間には、港に戻ってのんびりとランチを食べる(右)  
キャンベックの港のジェティーは、子供たちの遊び場になっている(左)



ダイビングを終えて戻ってきたボートを港で出迎える(上)  
ペリリュー島の北には浅瀬の美しいリーフが広がっている(右上)  
こじんまりとして静かなキャンベックの港(右下)



一度目の滞在は、単独でのダイビング取材だった。しかし、2度目の滞在は家族3人でこの島を訪れた。家族を連れてきた理由はいくつかある。一度目の取材の時に、この島であれば、まだ2歳半の息子でものんびりとした田舎の島の雰囲気を楽しめると思ったからだ。もちろん、秋野さんを始めとする、取材でお世話になったデイドリームペリリューステーションのスタッフが「次は家族で来てください」とってくれたことも大きな理由ではあった。

だから、2度目の滞在では、ガンガンに潜ることはせずに、1日1本か2本潜って午後は島内で家族の時間を過ごす、というスタイルで取材を行った。そのおかげで、ダイビングだけしていたのでは感じることでできない、ペリリュー島の良さを知ることができた。

メインのダイビングポイントが近いことも、家族を連れてくるには都合が良かった。ポイントまでの移動に時間を取られない分、家

族を待たせる時間が少ないというわけだ。ペリリューエクスプレス、ペリリューコーナー、オレンジビーチ、イエローウォールなど、ペリリュー島を代表するポイントは、島の南にあるキャンベックの港から数分で着いてしまう。僕たちが滞在している集落から港までは車で10分くらい。だから1ダイブ、2ダイブ潜ったところで、その後に家族で過ごす時間は十分にある。

ダイビングを終えて港に戻ると、たいていの場合、スタッフに連れられて車で来ていた息子は素っ裸になって、近くの子供たちと一緒に遊んでいた。島の子供たちも、島外から小さな子供がやってくるのが珍しいからか、ちょっと大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんたちが、何も言わなくても面倒を見てくれているようだった。時には、仲良くなった子供の家に呼ばれて、お父さんから、釣ってきた大きな魚を丸ごとプレゼントされたりしていた。

Palau, Peleliu island



島の子供たちが遊びに来  
てくれる(上)



村内の中心にある学校で  
は野球の試合が行われて  
いた(左)

日本軍の戦車とは比較にならないほど巨大な米軍のアムトラック水陸両用強襲車両(右上)  
日本軍の総司令部だった場所は博物館になっている(右下)  
まるで軽自動車のように小さな日本軍の九五式軽戦車(左)



妻は、そんな子供たちの遊ぶ様子を側で見ているか、島の大人たちと談笑をしたりして時間を過ごす。小さな島だから、しばらく滞在しているだけで、すぐに顔見知りになる。洗練されたりリゾート地とは違う、人々の純粋な優しさとアットホームさが僕たち家族を取り巻き、素直な気持ちにさせてくれる。

大きなお兄ちゃん、お姉ちゃんの後についてはしゃぎまわる息子のやんちゃ振りを見るにつけ、息子を連れてきて本当に良かったと感じた。

体を探しに出かけた。この島は、太平洋戦争中、パラオの中でも激戦が行われた場所として有名だ。島内には、様々な戦跡が今もなお残っている。特に目を引くのは、当時日本軍の総司令部があったビルの廃墟。壁には、アメリカ軍艦からの攻撃痕や、機関銃の弾丸痕が残っている。中は博物館になっているが、島内観光ツアーのときだけ中に入れるらしく、普段は鍵がかかっていて誰もいない。

戦車の残骸もある。日本軍の戦車とアメリカ軍の戦車の大きさの違いには愕然とする。米軍の戦車に比べると、日本軍の戦車は、まるで子供のおもちゃだ。あの小さな車内に数人の兵隊が乗り込んで操縦していたのかと想像すると悲しくなってくる。「この炎天下のパラオで、クーラーも効かないあんな小さな乗り物に、よく乗っていたものだ」と寒心した。

## 巨木と戦跡

もちろん、ダイビングをしなくて家族サービスだけしていたわけではない(はず)。天気の良いければ、島内を散策して、絵になりそうな被写

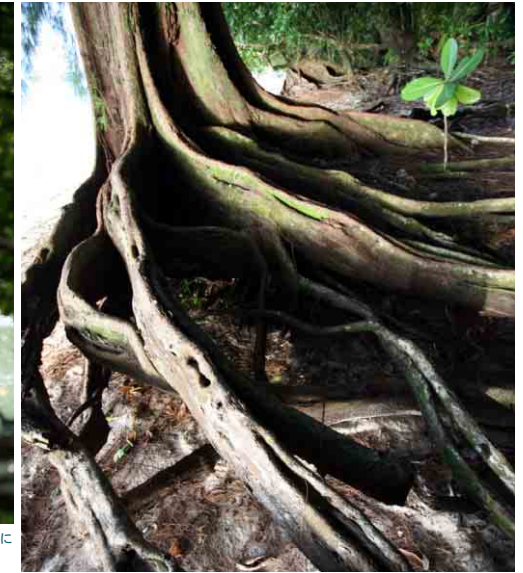




オレンジビーチの前に広がるジャングルには、青い空を覆い隠すように、いく本もの巨木が枝葉を伸ばしている



妖精が出現しそうな風景に心捕われる(右上)  
地には、複雑に木の根が走っていることも(右下)  
鬱蒼としたマングローブの森も、不思議な風景を見せてくれる(右)



## 巨木と戦跡

# Island Life

しかし、島内で一番興味を覚えたのは、その戦跡を覆い隠すように生い茂るジャングル。そして、その中に忽然と姿を現す巨木たち。威風堂々としたその佇まいには、精霊が宿っていると言われても不思議ではない神々しささえ感じてしまう。海ばかり見ているせいか、最近では、こういう木々に存在しているエネルギーのようなものに、妙に引かれてしまうのだ。観光化が進んだコロール滞在では、多くの自然が残るパラオと云えど、これほど近くに鬱蒼としたジャングルを感じることは無いだろう。



ペリリューの  
海の魅力

# Under Water

ペリリューコーナーの先端で群れるロウニンアジの群れの迫力は壮観だ

Palau, Peleliu island

Web-lue 2006. Autumn

 Information Link <http://daydream.to/peleliu/index.html>  click! 情報HPへジャンプ

[www.web-lue.com](http://www.web-lue.com)

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

# ペリリューの 海の魅力

さて、肝心のダイビングだが、前の特集でも紹介したように、メインのポイントはペリリューエクスプレスとペリリューコーナー。ここで見られるのは、コーナー先端での数百匹のロウニンアジの群れ。カジキとの遭遇率の高さも魅力の一つだ。

しかし、時にその流れの速さは、激流となる。エントリーしても、その流れであっという間にコーナー先端から沖へと流されてしまうことも多い。僕のように、様々な海を潜った経験のある者や、現地ガイドでさえも、このポイントに潜る前は「緊張する」と口々に言うほどのポイントだ。

両ポイントは、ブルーコーナーやジャーマンチャネルを潜り倒し、パラオを潜り尽くしたダイバーが最終的に制覇したいポイントとして選択すると言っても過言ではない。このポイントを制してこそ、真のパラオ通ダイバーになれるわけだ。しかし、チャレンジ精神だけでは潜れないポイントでもある。このポイントに潜るにあたっては、慎重さ、海に対する謙虚さがもっとも重要な要素になるに違いない。



グドブスウォールに群れるマダラタルミの群れ(左上)  
オレンジビーチに群れるギンガメアジの群れ(右上)  
イエローウォールに群れるインドオキアジの群れ(右下)  
ペリリューエクスプレスの激流を潜り終えたダイバーたちの呼吸は荒い(左下)

# Under Water



ペリリューエクスプレスイントリー前には入念なブリーフィングが行われる

Palau, Peleliu island



島の東側、深く入り込んだ遙遠の湾には、人も住まず、美しく静かな情景を見せてくれる

## ペリリューの海の魅力



パラオで人気のサイドスポット  
ワーフゴビー(右)  
アケボノハゼの個体数は多い(左)



通常の2倍近い大きさで、遠くからでも良く見えるフロート  
を常備して安全性を高めている(上)  
ボートの屋根より高い巨大フロートは、かなり遠くからでも  
確認できる(左)

両ポイントをペリリューの横綱とするならば、大関クラスのポイントが、ペリリューカット、イエローウォール、それにオレンジビーチといったポイントだ。

ペリリューカットは、ペリリューコーナー側からエントリーするとき、先端に向かう途中のドロップオフに口を空ける、巨大な切れ込みだ。特に満月前の数日間は、数千匹のパラフエダイが群れることで人気のポイント。交尾のためと考えられているが、とにかくその群れの巨大さは圧巻だ。通常は単独か少数でいることが多く、群れていても散漫だったりするし、体色も地味～な魚だが、これだけ密に群れれば、無視するわけにはいかない存在になる。

ペリリューコーナーよりさらに島の北西側に位置するオレンジビーチは、キャンベックの港の目の前にあるポイントだ。港からの所要時間は1分。そんなすぐ目の前のポイントで見れるのは、これまた数千匹も群れるギンガメアジ。ブルーコーナーをはるかにしのぐ群れを目撃することもある。しかし、見れる深度が水深30m付近だったりする。それに警戒心も強いので、あまり接近できないことの方が多いよう

だ。当たったときに目の前に姿を見せる、ギンガメアジの群れは、まさにどこまでも続く長い壁のようだった。

ペリリューエクスプレスの北東側にあるのがイエローウォール。こちらは、ドロップオフの壁に、美しい黄色やオレンジのソフトコーラルが群生していることから、この名前が付けられている。パラオでも珍しい印象の景観だ。ここでは、インドオキアジ、カマスなどの群れが見れる他、黄色いソフトコーラルの上に乱舞するハナダイの群れも見ものだ。

デイドリーム秋野さんは、このポイントで一度に11匹のカジキを見た経験があるという。他にも、3月の満月前限定で、単独でも珍しいイレズムフエダイが群れを形成することで、人気のポイントだ。その数はやはり数千匹。来年は、僕もそのイレズムフエダイを狙うために、再度この海を訪れようと思っている。

この他にも、マクロメインのポイントのタートルコーブやハネムーンビーチなどのほか、船が出るキャンベックの浅い湾内でも、地味だけど、様々な種類のハゼの観察や撮影を楽しむことができる。

# Underwater

## Palau, Peleliu island



# 2歳半の息子を連れて訪れた ペリリュー島の思い出

文|| 越智充奈子

自然に触れて、子供の表情も生き活きとしてくる(右)  
スタッフや島民が、皆で子供の相手をしてくれる。人の優しさを感じることができる(左)



コロールからペリリュー島までは、思っていたよりボートに乗っての移動が遠かったですね。でも、雨とか降らなかったし、海も荒れてなかったから、海友も、ボートから見える見慣れない景色を楽しんでいたようです。

デイドリームペリリューステーションのパラオ人スタッフのエルバイとランダと一緒に遊んでくれたのがすごく思い出に残っています。エルバイは一見強面だけど、子供の扱いがとっても上手で、海友を抱っこして、お花を見せに連れて行ってくれたり、近所の赤ちゃんのところに遊びに連れて行ってくれました。パラオ人の赤ちゃんなんだけど、イチローって日本人の名前がついてるんですよ。その子の従兄弟のお兄ちゃんがニローって言うんだけど、よく海友と遊んでくれてたんですね。最初は「日本人の名前だよ」って言われてびんと来なかったんだけど、エルバイがイチローのところに連れて行ってきて、「あ〜、この子はジローのはずがニローになったんだってわかりました(笑)」。

ランダは特別な遊びをしてくれるわけではないんだけど、例えばショップの仕事をしながら、海友と楽しそうに遊んでくれてるんですよ。車の洗車したときなんか、海友は素っ裸になって、楽しそうにランダのお手伝いをしてました。子供をその気にさせるのが上手なんでしょうね。

マサちゃん(井口さん)も海友にとっても優しくしてくれましたし、すごく気も使ってくれていたと思います。女性ならではの細かい配慮をしてくれて、私は彼

女がいてくれて、とっても助かりました。

海友自身は、秋野さんがカニに指を挟まれて血を流していたことが強烈に印象に残っているらしく、家に帰ってからもしばらくは「ね〜、あきのしゃんは〜? あきのしゃん、おてていたいいたいなったね〜」と何度も言っていました。でも私たちからすれば、車の横転事故で、頭がコブダイみたいにはれ上がった方が痛そうだったんですけど。そのことはあんまり記憶に残ってないみたいですね〜(笑)。

数日間しか滞在していなかったのに、島の子供たちが、毎日遊びに誘いに来てくれたり、お兄ちゃんお姉ちゃんは何もいわなくても遊びの相手してくれるんです。海友とちょうど同じくらいのサニーのお父さんやお母さんとはよく話しもしました。釣ってきたお魚をおみやげにもらったり、ピクニックに誘ってくれたりもしたんですよ。おばあちゃんが、少しだけ日本語が話せて、日本の歌を歌って聞かせてくれたりしました。

だから、主人がダイビングに出かけていても、海友は遊び相手に不自由しなかったし、私も地元の人たちのことを色々知ることができて楽しかったです。

周りには、犬や猫、鶏、豚、ヤギなど、海友に見せるにはちょうど良いくらいの動物たちがいっぱいいるし、とにかく様々な人との出会いが嬉しかったです。日本だと結構子供に対して冷たいですけど、ペリリューにいたときは、本当に人の優しさというものを毎日感じて生活していました。

# Mother's eye

Palau, Peleliu island





この素朴な島の風景が好きだ



### Stay



### Mayumi Inn

まゆみお母さんが、作る手料理が美味しい素朴な民宿スタイルの宿。隣には小さなマーケットも併設している。シャワー、トイレは共同

### Diving Service day dream peleliu station

2005年12月にオープンした期間限定のデイドリームペリリューステーション。パラオの海の開拓に情熱を燃やす秋野さんを筆頭に、安全面で信頼できるスタッフが揃う。今年2006年も12月からシーズンインを向える

Link! <http://daydream.to/peleliu/index.html>

### Topic daydream SPIRITS 誕生!

デイドリームのハウスエージェントとして誕生したデイドリームスピリッツ。ダイバーによるダイバーのためのダイビングツアーをコンセプトに、パラオ・グアム・サイパンのダイビングツアーのアレンジ、現地手配を行います。パラオではカヤンゲル、ペリリューだけに留まらず、今後はアンガウル島も取扱い予定です。また、サイパンでは、テニアン島1泊ダイビングサファリや、禁断の島チャーター、ヤギ島1Dayトリップ等など、今までの旅行社では扱っていなかった、ダイバーがやってみたかった「あれこれ」を適えます!

Link! <http://www.daydream-spirits.com/index.html>



### Peleliu Inn

まゆみお母さんの息子さん経営している民宿。各部屋にトイレシャワーがついている。1階には小さなスーパーが。食事は徒歩2分ほどのマコムインの食堂で。



### 関連記事

WEB-LUE Vol,4 Palau [Link! http://www.web-lue.com/pdf\\_file/04/01\\_palau.pdf](http://www.web-lue.com/pdf_file/04/01_palau.pdf)

WEB-LUE Vol,5 Peleliu [Link! http://www.web-lue.com/pdf\\_file/05/05\\_peleliu.pdf](http://www.web-lue.com/pdf_file/05/05_peleliu.pdf)

# Palau, Peleliu island